

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) センシュウ ダイガク	フリガナ) ケイエイ ガクブ	フリガナ) オガワ ゼミナール
専修大学	経営学部	小川ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) テノヒラ	フリガナ) タナベ タクミ	5人	無
TENOHIRA	田邊 匠		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)
指示棒

研究テーマ (発表タイトル)
組織経済学からみた日本プロ野球の人事評価

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

2020年東京オリンピックが近づいていくなか、陸上の桐生祥秀選手、競泳の渡部香生子選手、スポーツライミングの大場美和選手をはじめ若手のスポーツ選手の活躍が大きく報道され世間のスポーツに対する関心は日々大きくなっている。中でも2008年北京オリンピック以来、三大会12年ぶりとなる野球に対する関心は特に大きいといえるだろう。

日本において野球は国民的なスポーツとして学生・社会人問わず多くのプレー人口を抱えている。その中でも最上位リーグといえる日本野球機構が統括するセントラル・リーグ及びパシフィック・リーグの成績と年俵を比較し、相関関係を見つけることで、経済学的な視点との共通項があるのではないかと考察する。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

野球選手の年俵平均の推移は、2000年から3000万円を超えるほどになっている。1970年ごろからセイバーメトリクスという野球を統計学的見地から分析する考えが広まってきており、データ野球といわれるように細かい成績が数値化されている。個人スポーツの評価と違い、チームスポーツは評価を明確につけにくい。公式戦のデータを利用し、今、与えられている年俵が適正であるのか、選手が効率よく年俵を増やすプレーはあるのかを研究する。

3. 研究テーマの課題

チームごとの内部環境の違い(チーム方針・親会社の資金力)によって選手の評価方針が変化するため、チームをスモール・ビッグボールに分けて分析した。経済学的視点から、成績と年俵の相関関係を用いて、年俵に反映されやすいプレー、実は評価

されていないプレーが存在するのではと分析した。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

今回の研究において、チームごとの特色に合った成績と、それに対する年俵の相関関係が分析結果から見て取れた。

普段、私たちが観戦や応援している野球チームをモデルに、働き手がモチベーションを維持してプレーするためには、仕事環境に見合った成果に対するインセンティブが与えられているという理論を、企業の成果報酬の考えに落とし込み、考えていくことの理論モデルとして活用していきたい。

今回の研究結果によって組織経済学における成果とインセンティブの理論モデルを構築していくことを行っていきたい。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

日本プロ野球公式戦過去 5 年分(2012 年～2016 年)6 球団(福岡ソフトバンクホークス、千葉ロッテマリーンズ、楽天ゴールデンイーグルス、広島東洋カープ、読売ジャイアンツ、中日ドラゴンズ)のデータの収集、分析を行った。分析結果から、データの少ないため統計的に有意であることが立証されない項目も発見できた。

今後は、過去のデータをさらに増やし、新たな仮説を打ち立て検証していき、引き続き、組織経済学の成果やインセンティブの理論を確立し、応用、実践につなげていきたいと考えている。

6. 結果や今後の取り組み

今回の研究の結果から、チームの方針に沿ったプレーは高く評価されているという判断が一部では得られた。

だが、高校野球でよくみられるスモールベースボールに対して、評価が適切ではないのではという部分もあったので、今後も研究をおこなっていきたい。野球は印象論で語られることが多いが、成績を分析することで、信頼できる結果を得ることができた。

新たに、他のデータを追加することで、新たな相関関係が見つかる可能性を感じたので、今後も、観点を忘れずに分析を行い、新しい角度から見た野球の試合観戦等を楽しみたい。

7. 参考文献

<http://baseballdata.jp/> 「データで楽しむプロ野球」(2017 年 9 月 25 日)

<http://mgg.mitsuipr.com/mgg/result/2016/index.html> 「三井広報委員会」(2017 年 9 月 25 日)

<http://npb.jp/award/2013/pl.html> 「NPB 日本野球機構」(2017 年 9 月 25 日)

<http://www.gurazeni.com/player/64https6> 「プロ野球選手の年俵、年俵推移、」(2017 年 9 月 25 日)

http://npb.jp/bis/2013/stats/idb1_h.html 「NPB 日本野球機構、選手成績」(2017 年 9 月 25 日)

<http://facounter.web.fc2.com/> 「プロ野球 FA カレンダー」(2017 年 9 月 25 日)

山本勲(2015) 「実証分析のための計量経済学 正しい手法と結果の読み方」(中央経済社)(2017 年 9 月 25 日)

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください